

稲作情報 特別号

黒 部 市
黒 部 市 農 業 技 術 会 議

今年も安全・安心で高品質・良食味な「黒部米」の生産に取り組もう！

1 春の土づくり

●土壌改良資材及び有機物の施用

土づくりの効果は単年度で発現しづらいため、継続した取り組みが必要です。土壌改良資材を昨秋に散布しなかった場合は耕起前に必ず散布するとともに、有機物の施用に努めましょう。

【主な土壌改良資材と施用量の目安】

資材名	10a 当たり施用量	効果
粒状ケイカル	200kg	ケイ酸補給、酸性矯正
シリカロマン	100kg	ケイ酸・リン酸補給、酸性矯正
アサヒニューテツ	100kg	鉄分・ケイ酸補給、秋落ち防止
発酵鶏ふん※	75~100kg	リン酸・カリ補給、秋落ち防止

※連用田や地力の高いほ場は、基肥量を減量しましょう。

JAくろべが行う土壌分析の結果では、ケイ酸やカリ、腐植が目標値を下回っているほ場が目立ちます。ケイ酸の少ない稲は、近年のような高温・少雨が続き、蒸散を抑えるため気孔が閉じて光合成能力が低下し、生育が停滞します。



気孔が閉じる → 光合成低下



気孔が開く → 光合成維持

●深耕による作土層の拡大

耕起は、作土の深さ 15cm 以上を目標（現状より 3cm 深く）に、トラクタの速度を落としてゆっくりと行いましょう。作土層を深くすることで根の伸長を促し、気温や水分の変化を受けにくい稲体にしましょう。

始業前の点検方法や速度等の設定はお持ちの取扱説明書をご確認下さい。



○土壌改良資材散布に対する助成

土壌改良対策事業（市とJAが土づくりをサポートしています）

2 種子予措

昨年は、ばか苗病やもみ枯細菌病等の病害の発生が見受けられました。化学農薬の使用等の適切な対策を行い、病害の発生を予防しましょう。

種子の準備 ◆種子更新を必ず行い、健全な種子である県内産種子を使用する

比重選 ◆充実の悪い籾や、ばか苗病等の保菌籾を除去する

比重：うるち 1.13（硫安 5.3kg/20ℓ）、もち 1.08（硫安 3.0kg/20ℓ）

※硫安による発芽障害を防ぐため、比重選後は十分に水洗いをする。

種子消毒 ■「モミガードC水和剤」による処理方法

- ・200倍液（種籾 10kg に薬剤 100g/水 20ℓ）に24時間浸漬する。
- ・消毒効果を高めるため、10～15℃を徹底する（15℃が望ましい）。
- ・消毒後の種籾は水洗いせずに浸種する。

浸種 ◆発芽を揃えるため、時々、芽出し袋を上下入れ替えて、十分に吸水させる

- ・水温 10～15℃で、7～10日程度（浸種積算温度 100℃以上）を目安とする（ただし、富富富は 120℃）。
- ・水は 1～2日毎に交換する（薬剤消毒籾は浸種開始から2日間は水の交換を控える）。
- ※水温が 10℃未満や 15℃を越えると、芽の揃いが悪くなりやすく、不均一となる。
- ※水温が高くなる場合は、毎日水の入替えを行う。
- ※浸種桶は直射日光を避け、温度変化の少ない場所に設置する。

催芽 ◆30℃で行い、芽の長さをハト胸～2mm程度にする

- ・30℃で24時間を基本とするが、芽の揃いを確認して時間調整する。
- ・細菌性病害が発生しやすくなるため、30℃を超えない。【育苗器の利用を推奨】
- ・芽の長さは、ハト胸～2mm程度が目安。（右図の丸枠）
- ・催芽終了後は、速やかに冷水で芽止めを行う。
- ・水を切った後、換気できる場所で直射日光を避け、保管する。



3 農作業安全

農業就業者数に占める死亡事故の割合は他産業と比較して依然として高く、年齢階層別では65歳以上の割合が8割以上を占めています。

主に乗用型トラクタ、刈払機（草刈機）、コンバイン、歩行型トラクタ（耕うん機）等の機械作業中に発生しており、大型機械はもとより、小型機械でも、その特性や使用上のポイントに注意し、農作業安全に努めましょう。

